

聖学院大学はなぜデータブックを
作成しているのでしょうか。

聖学院大学は受験生の立場に立ち、
自分にあった大学を見つけ出す
手助けをしたいといつも考えています。

このデータブックは聖学院大学についてのさまざまなデータを数字でわかりやすく示したものです。大学のイメージをビジュアルに伝え、手に取った人が聖学院大学のことをわかるようにしたものが「ガイドブック」で、それとセットでより詳しいデータを取めたものがこの「データブック」です。

聖学院大学では受験生の皆さんが大学選びをする時に参考になるようにできるだけ情報をオープンにしています。大学選びにはいわゆる「偏差値」や「難易度」以外に必要なデータがあると考え、他の大学に先駆けて積極的に情報公開をしてきました。データブックが最初に作られたのは今から13年前になります。ホームページでも積極的な情報公開を行っています。

入学試験のデータと就職のデータだけでなく、大学での学びや学生生活に関することもデータにしています。

大学4年間で「学ぶこと」を基本として有意義に過ごし、人格を形成すること。そして良き師と友人との出会いの中で、広い視野と社会に出るための力を身につけていくことが大切と聖学院大学では考えています。

そのために本学では少人数教育を徹底して実践しています。

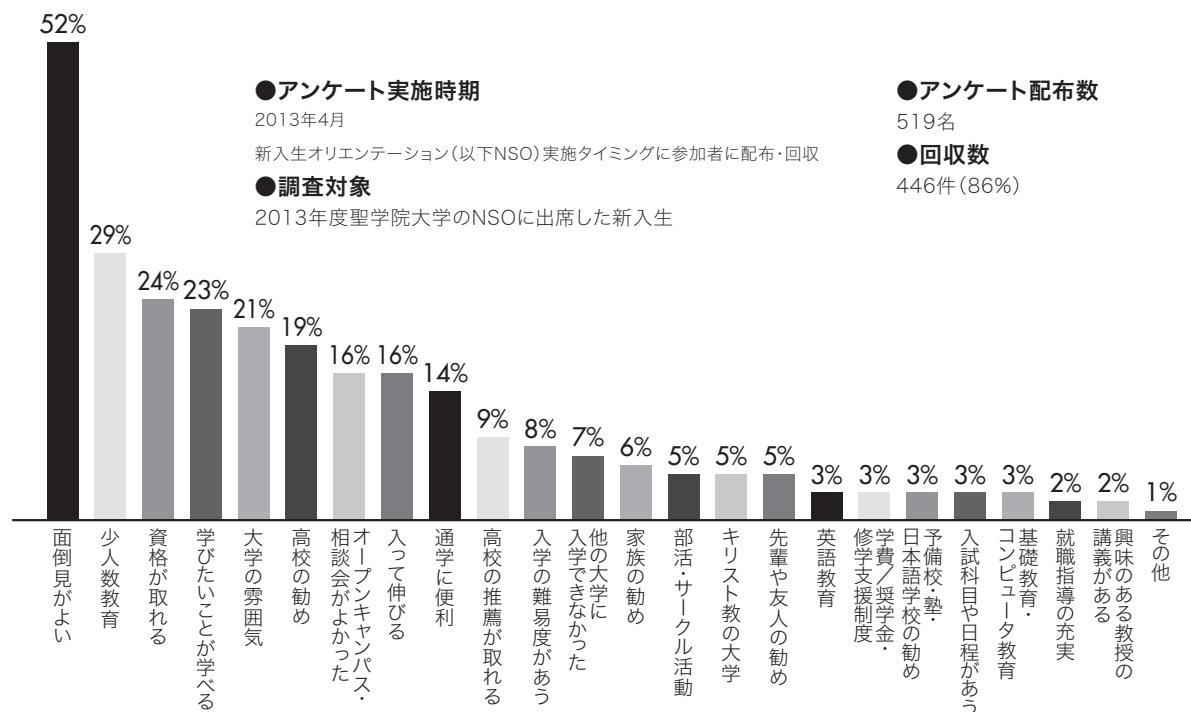
最近では「入って伸びる」大学として評価されることも多くなりました。学生の満足度、海外研修者数や社会福祉士・精神保健福祉士国家試験合格、教員採用の実績などのデータがそれを裏付けています。ぜひこのデータブックで確認してください。

みなさんが持っている将来への夢を
実現していくために、
どのような教育を提供できるかを
真剣に考え、実現しています。

このデータブックを活用して、
聖学院大学をより深く知ってください。

聖学院大学を選んだ理由は何ですか？

2013年度新入生オリエンテーション(NSO)アンケートより



あなたにとって聖学院大学は、
点数をつけると何点ですか。(100点満点)

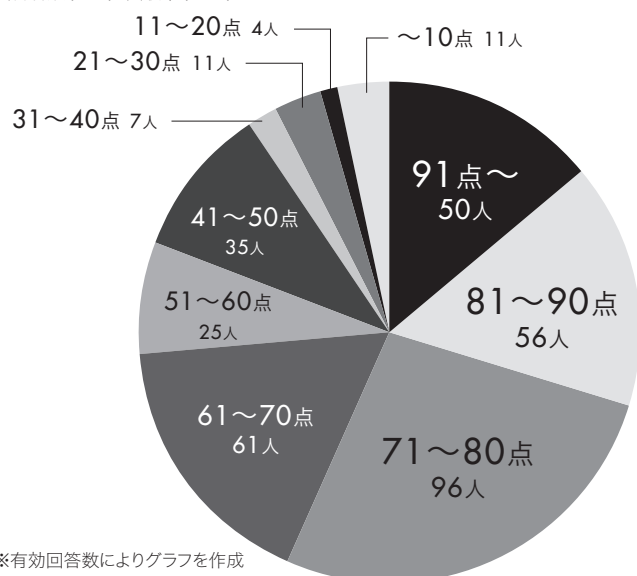
2012年度卒業生アンケートより

実施方法

2013年3月16日卒業礼拝にて学部卒業生520名に実施

●回収率

回答者数(425)、回収率(82%)



※有効回答数によりグラフを作成

平均点71.4点

80点以上 157人(44%)

聖学院大学の印象を
一言で表すと?(複数回答可)

2012年度卒業生アンケートより

	人数	割合
のんびり	170名	40%
面倒見がよい	157名	37%
自由	124名	29%
温かい	118名	28%
個性尊重	47名	11%
いい加減	40名	9%
まじめ	36名	8%
国際的	27名	6%
刺激的	21名	5%
冷たい	17名	4%
厳しい	12名	3%
センスがいい	10名	2%
その他	18名	4%

※有効回答数より表を作成

学校法人聖学院のスクールモットー

「神を仰ぎ、人に仕う」 Love God and Serve His People

聖学院の歴史の中で形成されてきたこのスクール・モットーは、イエス・キリストの教えられた根源的な戒め「主なるあなたの神を愛せよ」と「あなたの隣り人を愛せよ」から汲み出されています。

聖学院大学の2つの標語

ピエタス エト スキエンティア
pietas et scientia 「敬虔と学問」

「ピエタス エト スキエンティア」というラテン語は、「敬虔と科学」あるいは「信仰と学問」とも訳せます。真の敬虔は、科学を否定せず、むしろそれを完成に向けて駆り立てます。本来の学問は敬虔と結びつくことにより、高次の学となり、社会のなかで真に意味ある営みとなるのです。この標語は本学の建学の精神を表しています。

ヘー アレーセイア エリュセローセイ ヒューマース
ἡ ἀλήθεια ἐλευθερώσει ὑμᾶς
「真理はあなたがたに自由を得させるであろう。」
(ヨハネによる福音書 第8章32節b)

これはイエス・キリストが語られた言葉として新約聖書に記されており、世界の主な図書館に掲げられている言葉です。現代人は今さら自由について学ぼうとはしないかもしれませんが、しかしキリストは、真理を離れた自由が罪の奴隷状態に過ぎないことを教えています。本学はこの言葉を標語として掲げ、真理を学ぶことを通して自由の本当の意味を教え育てていくことを目指しています。

※上記の2つの標語は、聖学院大学図書館の壁面に掲げられています。



学校法人聖学院理事長・院長
学長 教授

阿久戸 光晴



全学教授

姜 尚中



学校法人聖学院副院長
特命教授

キリスト教センター所長

山口 博

聖学院教育憲章

聖学院は間もなく創立百周年を迎えます。アメリカのミSSIONナリたちによる献身的奉仕を継承し、第二次大戦中は迫害をも耐え抜いて「神を仰ぎ人に仕う」精神を貫き、今日では幼稚園から大学・大学院、そしてアメリカに聖学院アトランタ国際学校をもつまでに至りました。

1945年の敗戦を機に「日本国憲法」と「教育基本法」が制定公布され、「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」(憲法97条)の恩恵を日本国民も享受するに至りました。聖学院は、この二つの根本規範が奇しくもキリスト教を基盤とする学院本来の教育目標と合致することを見だし、その理想を実現することをもって学院の教育的使命としてきました。それは、「平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたい」という国民的願望を教育によって達成するためです。

21世紀に入り、国の内外を問わず多くの深刻な問題が発生する中で、教育の重要性はますます広く深く認識されてきました。この時わが国と人類の将来にかかわる教育の方向を誤ってはなりません。聖学院は過去百年の間守り続けてきた教育の基本精神を明らかにし、同時に現代の諸問題と取り組んで、いかによき未来を開拓すべきかを、過去三カ年に及ぶ聖学院教育会議で検討してまいりました。いまここにその成果をまとめ、聖学院教育憲章として宣言いたします。

【聖学院教育の根本目的】

聖学院は、日本国憲法(1946年制定)と教育基本法(1947年制定)に示された理想の実現を図り、将来の日本および国際社会に貢献する人間を育成することを教育の根本目的とします。

【聖学院教育の理念】

聖学院は、一人ひとりが神からかけがえない賜物を与えられているという確信に基づき、それぞれの固有な賜物を発見することを助け、個人の人格の完成へ導く教育をします。聖学院教育はナンバーワン教育ではなく、オンリーワン教育であり、そしてそれはオンリーワン・フォー・アザーズ(他者のために生きる個人)の教育です。

【聖学院教職員の自己革新】

聖学院教職員は、「仕えられるためではなく、仕えるためにきた」と言われたキリストの模範にしたがひ、人々に最も良く仕える者こそが社会を導いていくとの確信のもとに、サーバント・リーダーシップをもって責任を果たすため自己革新に努めます。

以上ここに宣言いたします。

2002年11月14日制定

聖学院教育会議

聖学院大学の理念

第1条

本大学は、プロテスタント・キリスト教の精神に基づき、自由と敬虔の学風によって、真理を探究し、霊的次元の成熟を柱とした全体的な人間形成に努め、人類世界の進展に寄与せんとする者の学術研究と教育の文化共同体である。

第2条

本大学は、プロテスタント・キリスト教の伝統に即してなされる礼拝を生命的な源泉とする。礼拝においては、聖書と宗教改革者が証する福音が語られ、そこから大学共同体としての生命である研究と教育のための自由と責任、および伝道への活力、さらに本大学の伝統を継承し新たに創造する喜びと熱意とが与えられる。

第3条

プロテスタント・キリスト教は、特に近代世界の成立と展開に独特な貢献を果たしてきたが、それゆえまた、現代社会において固有な責任を負っている。本大学は真剣な学術研究と生きた教育、霊的強化とを通して、このプロテスタント・キリスト教の現代文化に対する責任という世界史的課題を大学形成において遂行し、希望ある世界の形成に寄与せんとする。

第4条

本大学は、日本におけるプロテスタント・キリスト教の伝統及びその信仰的、文化的、教育的貢献に連なるとともに、その労苦と苦心の経験に虚心に学び、その信仰、文化、教育活動の新しい進展のために努力し、日本社会に対し新たな指標を打ち立てようとする。そのため、福音的プロテスタント諸教会の協力を仰ぐとともに、とりわけ、かつての聖学院神学校が合流している東京神学大学との協力関係を密にする。また、広く内外のプロテスタント諸大学と相互協力の関係も樹立する。

第5条

本大学は、「現代文化の諸問題とキリスト教の課題」等の問題を研究する機会を提供し、開かれた大学として、プロテスタント・キリスト教の精神をもって国際化した時代と激動する社会、および地域の問題にも積極的に取り組み、創造的な活動することによって、そのキリスト教的、文化的特色を発揮することを期する。

第6条

本大学は、学校法人聖学院の設立による諸学校との精神的、財政的な一体性の中にある。また教育的にそれぞれ独自の位置と課題を尊重しつつ、それらとの密接な関連、協力関係を持ち、聖学院全体の一貫教育の高等教育段階を担う。

第7条

以上の理想のために、本大学に働く全ての教職員は、互いの人格を尊重し、各自の持ち場においてそれぞれにふさわしい責任を自発的かつ積極的に遂行するとともに、キリスト教的な愛と謙遜と熱意とをもって互いに協力し合うことが期待される。

第8条

教授は、福音的自由と真理への畏敬の念を持って、学問的探求に鋭意努力し、その研究と教育を通して、時代の課題に積極的に応えつつ、新しい世代の知的、実践的、霊的次元での育成に努め、本大学の精神、学問、伝統の確立と継承、および新たな創造に努めることが期待される。

第9条

学生は、知的、実践のみならず霊的次元において成熟し、かつ専門の学問の研鑽とその応用力の修得に努め、現代社会の課題に取り組み、明日の社会を担い得る教養と良識とを身につけ、豊かで個性的な人格形成に努めることが期待される。

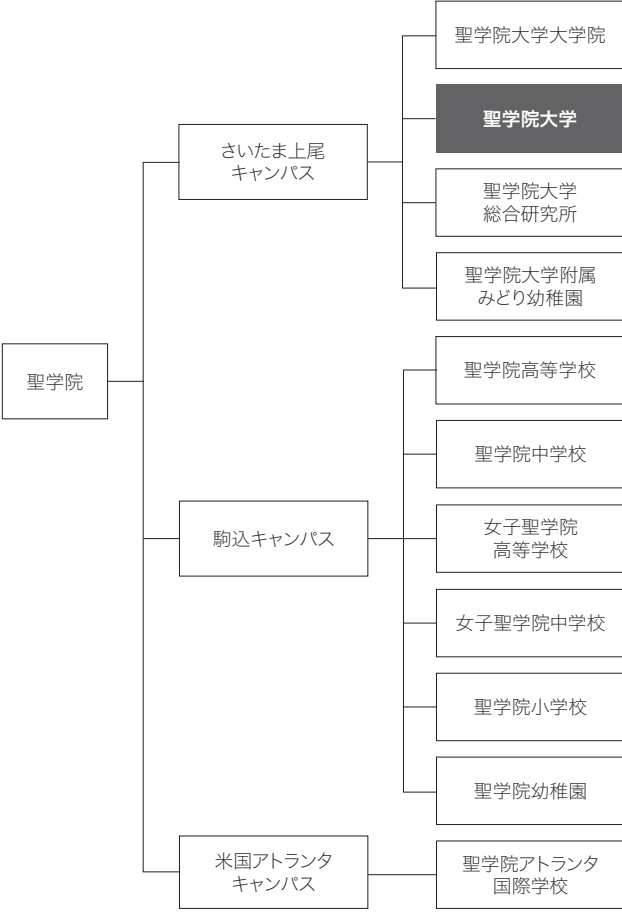
第10条

本大学は、以上の理念に基づくことによって、いかなる種類の組織体やイデオロギーの支配も介入も許さず、また私的ならびに集団的な暴力による破壊や妨害を許さない。

聖学院の歴史

1903年（明治36年）	聖学院神学校を設立
1905年（明治38年）	女子聖学院神学部を設立
1906年（明治39年）	聖学院中学校を設立
1908年（明治41年）	女子聖学院普通部を設立
1912年（明治45年）	中里幼稚園（現、聖学院幼稚園）を設立
1947年（昭和22年）	学制改革に伴い聖学院中学校、女子聖学院中等部を設立
1948年（昭和23年）	学制改革に伴い聖学院高等学校、女子聖学院高等部を設立
1951年（昭和26年）	私立学校法施行に伴い学校法人聖学院を組織
1960年（昭和35年）	女子聖学院小学部（現、聖学院小学校）を設立
1967年（昭和42年）	女子聖学院短期大学英文科を設立（後に国文科・児童教育学科増設）
1978年（昭和53年）	女子聖学院短期大学付属幼稚園（現、聖学院大学附属みどり幼稚園）を設立
1988年（昭和63年）	聖学院大学を設立（政治経済学部政治経済学科） 聖学院大学総合研究所を設立
1990年（平成2年）	聖学院アトランタ国際学校（幼稚部・小学部）を設立
1992年（平成4年）	聖学院大学に人文学部欧米文化学科、児童学科を増設
1995年（平成7年）	聖学院国際センターを設立
1996年（平成8年）	聖学院大学大学院政治政策学研究科（修士課程）を設立
1998年（平成10年）	聖学院大学人文学部を日本文化学科、人間福祉学科を増設（女子聖学院短期大学を改組転換）
1999年（平成11年）	聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科（博士前期課程）を設立
2000年（平成12年）	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科を増設
2001年（平成13年）	聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科に博士後期課程を増設
2003年（平成15年）	聖学院アトランタ国際学校、Winter Chapel Roadに自己所有校舎を獲得 聖学院神学校100周年「聖学院教育憲章」完成
2004年（平成16年）	聖学院大学人文学部児童学科・人間福祉学科を人間福祉学部へ改組
2005年（平成17年）	女子聖学院中高100周年
2006年（平成18年）	聖学院大学大学院人間福祉学研究科（修士課程）を増設 「聖学院百周年聖約」完成 聖学院中高100周年
2008年（平成20年）	聖学院大学20周年
2012年（平成24年）	聖学院大学人間福祉学部にてこも心理学科を増設 聖学院幼稚園100周年

組織図



DATA BOOK 2014

SEIGAKUIN UNIVERSITY

CONTENTS

聖学院大学はなぜデータブックを作成しているのでしょうか。	
聖学院大学を選んだ理由は何ですか？	01
聖学院大学のスクールモットー・	
標語・教育憲章・理念・歴史・組織図	02

Chapter1 入試

06	聖学院大学の教育方針(ポリシー) 本学がセンター試験を導入しない理由
07	各学科のアドミッション・ポリシー
08	2013年度 入試結果
10	AO(アドミッションズ・オフィス)入試
14	推薦入試
16	自己推薦・スポーツ推薦入試
19	一般入試
20	秋学期入試
22	都道府県別入試データ
23	高校別入試データ
25	特別入試(社会人入試、帰国生入試、留学生入試)
27	編入学試験
28	入学前準備教育

Chapter2 教育

30	履修について
31	基礎科目
33	教養科目・総合科目
34	政治経済学科
38	欧米文化学科
40	日本文化学科
42	児童学科
44	こども心理学科
46	人間福祉学科

48	資格関連科目[司書講習・司書教諭講習 実施概要]
49	教育職員免許状・資格取得者数一覧
50	専任教職員数、授業・履修状況、科目等履修、リカレント教育
51	アセンブリアワー、在学中の学修時間
52	大学院
54	ラーニングセンター、留学

Chapter3 キャンパスライフ

56	在学者数(学部/留学生)
57	通学状況[自宅/自宅外通学・通学地域]
58	施設・図書館利用状況
59	学生相談室、保健室、課外活動、在学中のアルバイト時間
60	学費
61	奨学金
62	ボランティア活動[東日本大震災復興支援活動・地域連携活動 等]

Chapter4 進路

64	聖学院大学の就職サポート
68	進路状況
71	就職先・進学先
76	教員採用試験 就職先人数

Chapter5 その他のデータ

78	2012年度聖学院大学 消費収支計算書
79	外部公開講演・講座・イベント
80	オープンキャンパス・サマースクール、進学相談会